

12月定例会

提出議案の内容

2面

一般質問 4人の議員が問う

4面

常任委員会審議内容等

9面

町HP上で動画配信中!



無病息災を願って

(白石のどんど)

待望の新斎場建設の 着工へ向け大きく前進

平成23年12月定例会が、12月8日から12月16日までの9日間の会期で開催されました。

今定例会に提案された平成23年度各会計補正予算、条例の一部改正、人事案件、工事請負契約の変更などの議案を慎重に審議し、提案された14議案すべてを原案のとおり可決（同意）しました。

さらに、国に提出する意見書、議員提出議案6議案も原案とおり可決しました。

ぶじまで膨らむ医療費

補正予算

☆一般会計

歳入歳出それぞれ2351万6千円を追加し、補正後の予算の総額を、94億3952万6千円とするもの。

主な内容は次のとおり。
障がい者及び障がい児の日中一時支援事業（ショートステイ、デイサービスなど）の利用者増による増額。

幼保一体化施設「はわいこども園」の竣工式及び開園式に向けての経費
また、園庭の芝生化促進事業に増額。

広域連合への新斎場建設に係る負担金を計上。
土地改良事業の県事業費減額による減額。

9月の台風12号及び15号により崩壊した農地、農道、水路などの復旧に係る費用を計上。

下水道事業特別会計への繰出金の財源確保のため、減債基金積立金を減額。

ゆりはまネットの新規引き込みなどに要する經常経費を増額。

☆国民健康保険事業特別会計

歳入歳出それぞれ2601万9千円を追加し、補正後の総額を、歳入歳

出それぞれ18億9787万3千円とするもの。

主な内容は、退職被保険者の医療費の増額見込みによる療養給付費及び高額療養費の増額。

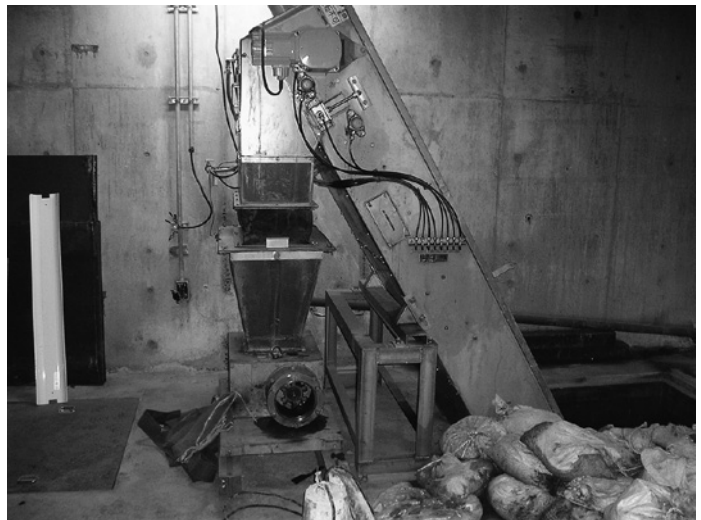
☆後期高齢者医療特別会計

歳入歳出それぞれ257万1千円を追加し、補正後の総額を、歳入歳出それぞれ1億7116万円とするもの。

主な内容は、後期高齢者医療広域連合へ支払う納付金の増額。



平成25年春に供用開始予定の新斎場（イメージ図）
（倉吉市円谷地区）



台風12号により被害を受けた「野花ポンプ場」の施設

☆農業集落排水処理事業特別会計

歳入歳出それぞれ33万1千円を追加し、補正後の総額を、歳入歳出それぞれ1億9719万5千円とするもの。

主な内容は、消費税確定に伴う公課費の増額、維持管理費の光熱水費及び新規加入に伴う委託料と工事請負費の増額。

☆簡易水道事業特別会計

歳入歳出それぞれ83万7千円を減額し、補正後の総額を、歳入歳出それぞれ6168万円とするもの。

主な内容は、一般会計繰入金の減額、消費税確定に伴う公課費の減額、経常経費の増額。

☆東郷財産区特別会計

歳入歳出それぞれ38万5千円を追加し、補正後の総額を、歳入歳出それぞれ234万7千円とするもの。

主な内容は、公有林野

整備基金積立金の増額と委託料の減額。

☆国民宿舎事業特別会計

事業収益を32万8千円増額し、補正後の額を3億7681万6千円とし、事業費用を82万1千円増額し、補正後の額を3億6374万4千円とするもの。

また、資本的支出の建設改良費を34万円増額し、補正後の額を8721万7千円とするもの。

主な内容は、台風12号による建物保険収入の増額、空調の移設と設計監理費の増額など。

工事請負契約の変更

現在施工中の町道松崎田畑橋線（バイパス）橋りょう上部工事において、使用する鉄筋などの変更に伴うもの。

主な変更内容は、仮設関係、鉄筋関係、誘導員関係など。

請負契約金額

変更前

8379万円

変更後

8897万2800円
（518万2800円の増額）

条例の一部改正

湯梨浜町特別医療費助成条例、湯梨浜町公共下水道条例の一部改正について、審議の結果、可決した。

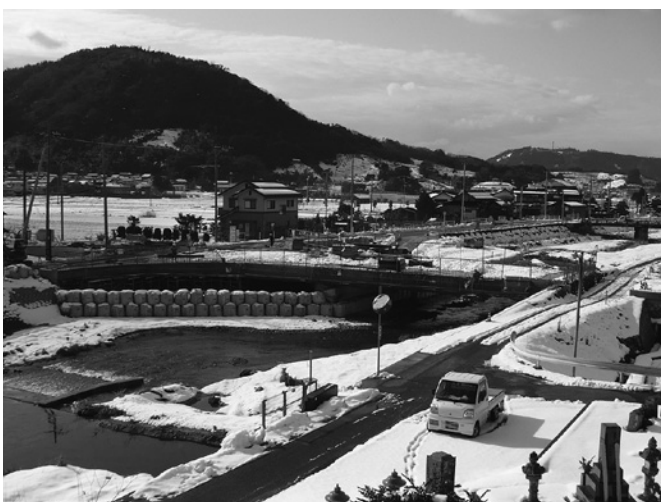
教育委員を再任

町教育委員のうち、1名の任期が満了することに伴い、提案された人事案件について、次の方の任命に同意した。

（敬称略）

熊坂 かつ枝（上浅津）

（任期 平成23年12月25日～平成27年12月24日）



完成間近の「田畑橋」

4人の
議員が問う

一般質問

ここが
聞きたい!



平成23年12月定例会の一般質問は、第5日目の12月12日（月）に行われた。

質問議員4人が登壇し、町政全般について熱心に議論を展開した。各議員の質問項目は次のとおり。



12月定例会本会議（議場風景）

上野議員

- ①災害への不安を和らげる対策を
- ②洋上風力発電への不安解消を

会見議員

- ①湯梨浜町の高齢者が地域で安心して、ゆたかな気持ちで暮らせる町づくり計画の実態、またこれからの取り組みを伺う。
- ②災害時にはニュース速報や災害情報を聞くために、ラジオが一番であった。各戸に防災ラジオを設置するよう、補助できないか伺う。

増井議員

- ①原子力発電について町長の考えを伺いたい
- ②幼保一体化について

石井議員

- ①地区進出学習会等「同和の特別対策」について
- ②就学援助制度について

Q 避難経路に誘導看板を

A 設置を検討する



上野昭二 議員

公共施設などの避難場所、また避難ルートの沿線に看板を設置し、スムーズな避難誘導を図っては。

答弁（町長）

年度内には県全体としての津波浸水予測、河川津波予測についての方向性も出されるものと思っており、それらが出した

い新たな浸水予想図に基づき避難場所などの検証を行い、地域防災計画の見直しを進めたい。

ハザードマップについては、消防団や各地区の自主防災組織などと連携して、集落ごと、災害ごとの避難ルートの作成と周知徹底を図りたい。

住民の避難誘導については、地域防災計画の見直しやハザードマップの新規作成と併せ、海抜などの表示板や、避難所への避難誘導看板の設置を検討する。

県での津波シミュレーションにより、最低3・23m、最高6・39mという衝撃的な数値が示された。

9月の台風12号では、ふたたび東郷池が氾らんし、床下や床上浸水などの被害があった。

近い将来、大規模水害を不安視する町民の声もあり、そのような不安を和らげるために何う。

湯梨浜町の防災対策見直しの進捗状況は。

ハザードマップ・避難場所などの見直しと周知徹底は。



台風12号で冠水した「東郷湖畔公園」

Q 低周波音被害に万全を

A 適切な対応を取っていく

泊沖での洋上風力発電事業が計画され、今も調査が実施されている。

「環境に優しい」と唱えれば、すべてが許される風潮が横行しているが、果たしてそれで良い



泊沖1kmに計画中の「洋上風力発電事業」

のか疑問を持つ。

弊害として、回転翼から発生する低周波音により、風下で暮らす住民への健康被害を指摘し、心配する専門家が多いことを踏まえ何う。

関係町民への健康被害などを危惧しているか。

泊・宇谷地区の町民が安心して暮らせるよう「人間アセスメント」も積極的に事業者へ申し入れてほしい。

答弁（町長）

低周波音に伴う住民への健康被害の懸念に関して、検証すべき重要な課題と認識している。

事業者から提出されている環境影響評価の方法書の中で、騒音（低周波を含む）についても調査及び評価が行われる。

近いうちに、事業者から住民の皆さんに説明の機会を設けていく予定である。

今後、県から意見照会の際、説明会が出た意見や議会の意見などを反映して、適切な対応をとっていききたい。

Q 高齢者の居場所は集落単位で

A 未設置集落には働きかける



会見祐子 議員

地域の絆が薄れている。湯梨浜町の高齢者が地域で安心して、豊かな暮らしができる町づくりの実態と取り組みを伺う。



いきいきふれあいサロン（橋津地区）

元気な高齢者のうち、外出が不自由だという人が3分の2もおられる。居場所づくりは集落単位のサロン形式で開き、健康づくり、栄養指導、体育指導は行政の出前講座などを全集落で行ってほしい。

また、集会所はバリアフリー化で使いやすくできないか伺う。

答弁（町長）

第5期湯梨浜町介護保険事業計画・高齢者福祉計画の中でも「高齢者の見守り、地域支えあい推進」を重点目標とし、行政区が自主的に行う「いきいきふれあいサロン」の活動を行っていくこととしている。

サロンは介護予防の場所としても重要な役割を担っていて、現在74集落中68集落にあり、様々な活動を展開している。

未設置集落への設置を働きかけながら、「地域包括支援センター」の訪問活動を通して高齢者

の生活を支援していききたい。
集会所のバリアフリーについては調査していない。



防災ラジオがあれば避難所でも安心

災害時には防災ラジオが停電でも情報が入り安心したと聞く。音声告知機・TCCの情報も、停電では役に立たない。

「防災グッズ」用具として必ず防災ラジオを入れる必要がある。高齢世帯、独居老人世帯、生活

Q 防災ラジオに補助を

A 緊急通報事業で対応

保護世帯などの家庭には優先して補助されてはどうか。

答弁（町長）

町としての災害時の対応は、要援護者には「愛の輪協力員」を通じた安否確認や「地域包括支援センター」が電話によって注意喚起を行っている。

来年度から、音声告知機を利用した高齢者・身体障がい者世帯を対象とする「緊急通報事業」を計画している。この機能を使って、ラジオ・テレビなどがない家庭への災害情報の提供が可能と考えている。

これらの点も重ね合わせて、必要かどうかよく考えてみたいと思う。



11月に役場屋上に完成した太陽光発電施設

3月11日に起きた東日本大震災は、9ヶ月を経過した今も復興に至っていない。



増井久美 議員

Q脱原発の姿勢を明確にすべきでは A脱原発に取り組むべき

日本は地震大国であり、いづどこでも大規模地震が起こる可能性があり、原発災害も起きる可能性がある。
島根原発が近くにある当町としても脱原発の姿勢を明確にし、町として代替エネルギー政策をきちんと持つべきではないか。

また、期待された梨が低価格に終わった。東電に対して風評被害として損害を補償させるべきではないか。

答弁（町長）

福島原発の事故状況を踏まえ、個人的には原則として脱原発に向けた取り組みをすべきと考えており、国政の場での協議を望む。

原発を補う代替エネルギーに関しては、省エネ政策の推進はもとより、風力発電や太陽光発電、また、温泉熱や地熱を利用した新エネルギー政策を検討してみたい。

現時点では、梨の価格低下と原発事故による風評被害との因果関係は明確になっていない。現在、県とJ-Aが進めている賠償請求の検討を注視しており、立証されれば賠償請求に向け行動したい。



活きた食育に期待が高まる「田後保育所」調理室

Q先生の連携や引き継ぎをきちんと A職員の能力向上へ向け研修中

羽合地区に幼保一体化施設の工事が着々と進んでいる。今後は中味が大切になる。保育所、幼稚園の先生の連携や、引き継ぎなど、きちんとできるのか伺いたい。

また、先生や保護者など、はじめてのことです戸惑いや不安もあると思う

が、対応はどうなっているのか伺う。

平成24年度から全町自園調理方式の予定で、「田後保育所」「長瀬保育所」では工事が完了している。来年度に向けて新たに調理員が必要となるが、その対応はなされているのか伺う。

答弁（町長）

町全体の取り組みとして、3歳児以上の就学前の子どもたちに対し、教育委員会の指導の下、保育所教育と幼稚園教育の両面で、職員の能力向上へ向け研修中である。また、どの園でも同等の教育を行うために、先生向けの就学前テキストも作成中である。

また、3つの園の子どもと保護者の事前交流活動を行い、一体化後にそれぞれの連携がスムーズにいくよう進めている。
「田後保育所」と「長瀬保育所」の調理室整備が終わり、自園給食を4月スタートに向けて、3月にリハーサルを行い、職員配置を検討中である。

Q「同和の特別対策」は部落解放に逆行

A 人権教育への一步



石井輝美 議員

同和地区の人たちが一般市民と同じ処遇を受け、融合を推し進めて、

同和の視点で人を見ると、
 というような意識そのもの
 がない自由で平等な人間
 関係を築いていくことこ
 そ部落解放への道と考え
 る。

地区進出学習など「同
 和の特別対策」は、それ
 とは逆に、行政自らが町



部落問題懇談会（中央公民館）

民に同和のレッテルを貼
 りつけ、児童生徒・市民
 を二分し、旧身分・同和
 の意識づけをしつかり
 行つて、旧身分や同和に
 こたわり続ける人間をつ
 くり続けることに他なら
 ないと考えるが。

答弁（教育長）

同和教育は人権教育へ
 と新たな一步を踏み出し
 ている。国民課題として
 同和の解決は、人権意識
 の確立が図られてこそ確
 かなものになると考えて
 いる。

「湯梨浜町あらゆる差
 別をなくする実施計画」
 が策定され、①部落の完
 全解放の実現②男女共同
 参画社会の実現③障がい
 のある人の自立④子ども
 の成長を育む実現⑤高齢
 者の自立と尊厳を守るな
 ど、新たな人権問題の解
 決に向け歩みを進めてい
 る。

現在の差別の不安をぬ
 ぐえない実態を踏まえ、
 計画を推進している。



活発なクラブ活動（東郷中学校）

Q就学援助項目にPTA会費を追加せよ

A保護者の自助努力にも期待

要保護と準要保護家庭
 を対象にした就学援助制
 度は、新入学用品費が実
 際の必要額より数万円も
 低額であるなど、制度改
 善が求められると指摘し
 てきた。

とつていく」との答弁が
 あった。

町長からは「教育委員
 会で必要ということであ
 ればきちんと予算措置は

国は補助要綱を平成22
 年4月1日改正し、クラ
 ブ活動費・生徒会費・P
 TA会費を補助項目に追
 加すると通知している
 が、これを実施していな
 いのは教育委員会の怠慢
 ではないか。

答弁（教育長）
 経済的理由により就学
 困難と認められる児童の
 保護者に対する援助制
 度である。

国の援助に関する法
 律、学校給食法、学校保
 健全全法を根拠として、
 学習費、新入学児童学用
 品費、通学用品費、修学
 旅行費、校外活動費、医
 療費、給食費などを、ま
 とめて補助している。

本町では就学奨励にい
 ると認められる者を対象
 として、①就学に絶対欠
 かせないもの②他の人
 にも迷惑をかけるもの③緊
 急性のあるものなどは、
 町で負担し、学習費など
 は保護者の自助努力に期
 待しつつ支援している。

常任委員会

審議内容

請願路線は
引き続き申請

総務産業常任委員会

10月12日ほか1回

Q 太陽光及び省工ネ設備等の申請地域の多いところは。

A また、本町の助成率は他町と比べてどうか。

Q 今年度の申請は、羽合地域が多い。本町の助成率は、最大37万5千円と標準的なところである。

Q 泊沖に計画されている洋上風力発電の風況調査の進捗状況は。

A ボーリング調査にかける準備段階と聞いている。

現在、風況調査は、調査期間が短いためデータが少ない。

Q 土砂災害特別警戒区

域（レッドゾーン）について対象地域の方に周知しているか。

A 4年前から説明会を開催してきた。説明に伺っていない地区には、今後、県担当者を通じて行いたい。

Q 道路新設改良事業が補正予算で減額になった理由は。

また、見送られた町道門田長江中央線のかさ上げ工事は、地元から請願も出ており急がれるが。

A 当初は、国に要求した金額で計上していたが、今年度2割カットとなったため4路線は見送った。請願路線等については、引き続き国に申請していく。



役場別館トイレに設置してあるベビーシート

Q さくら工藝品工房

は、入居者使用となっているが、町が身障用トイレにベビーシートを整備しなければならぬか。

A 町の施設であり、財源が有利な基金事業補助金で整備するもの。町所管の会議室も設置しており一般の方も利用される。

緊急通報装置で見守りを強化

教育民生常任委員会

10月3日ほか4回

Q 来年度から全町で緊急通報事業が行われる予定だが、過去のシステムとの比較は。実際の使用が少なく廃止された経過を考えると、同じことになるのでは。



「田後保育所」での園庭芝生化作業の様子

A 今回のシステムは、全世帯に設置してある音声告知機を有効活用し、ボタン一つであらかじめ登録した相手に知らせが届くもので、以前のものよりも利用しやすいと思われる。

現在行われている「愛の輪協力員」による見守りなどをさらに強化していく目的の事業である。

Q 補正予算で「はわい

こども園」の園庭芝生化をされるが、今後、他の園でも要望があれば対応されるのか。

A 今回は保護者の要望があり、補助制度があったので実施する。町として、すべての園で芝生化しようとは思っていないが、今後、保護者、保育現場から強い要望があれば、検討していく。

公民館運営の改善案を

慎重に議論中

3地域の体制の違い

旧羽合町では地区公民館が社会教育活性化の大きな役割を担っていた。羽合地域の6つの地区公民館は、補助金以外は地元負担で建設され、地元で維持管理している。

東郷・泊地域はほとんどの集落で自治公民館を持ち、地区役員で公民館長を務めている。

旧東郷町では、町の多目的施設として舎人会館、羽衣会館を建設したが、合併後、舎人地区と花見地区の地区公民館として変更された。また、東郷地区と松崎地区の地区公民館を中央公民館内に配置した結果、町全体では10の地区公民館体制となった。

しかし、泊地域には地区公民館体制はなく、自治公民館と中央公民館が

一体的に活動している。

地区公民館の使用実態

羽合地域では、長瀬地区以外の地区公民館は1集落に1公民館の体制として、他地域の自治公民館と同じ使い方がされている。

東郷地域の舎人会館と羽衣会館は、体制とは関係なく合併前と同じ使い方、ほとんどが地元利用で減免対象となっている。



長瀬地区公民館

教育委員会が改善案を提示

町教育委員会では、中央公民館を核として、現在の地区公民館単位で推進員を置き、旧町村単位で生涯学習推進協議会を設け、そこへアドバイザーを1名ずつ配置し、社会教育・生涯学習活動推進体制とする案を提示した。

それによって、現在は町所有という形態の羽合地域の3館（田後、橋津、宇野）は地元が所有し維持管理する施設として利用。また、東郷地域の2館（舎人、羽衣）については、合併前と同じ町施設として利用するという形態を示した。

公平性を求める陳情

区長会での教育委員会の説明を受けて、長瀬地区区長会から「地区公民館管理体制に関する陳情」が出された。

内容は、地区公民館をすべて町の所有・維持と



公民館活動（寄せ植え教室）

常任委員会での審査状況

10月以降、教育民生常任委員会で議論されてきたが、12月定例会において正式に付託された。

これまで10館の地区公民館には、均等割で23万円ずつ、さらに地区の人

月例報告会

執行部主催の月例報告会が11月17日に開催され、担当課から各事業について報告を受けたほか、議員の質問に対する質疑応答も行われた。

主な内容は次のとおり。

【泊沖洋上風力発電の進捗状況】

今後、事業主体はウィントックジャパンとし、調査・保守・管理は日本センサス㈱が行う。

【子ども手当の保育料特別徴収等について】

保育料、給食費を子ども手当から徴収できるようになった。

保育料の滞納分については、本人の申し出により徴収し、現に入所している世帯で滞納が発生すると予測できる場合は特別徴収を実施する。

給食費は申し出による徴収のみを実施し、いずれも2月から天引きする。

ずさんな建設計画が露呈

第11回臨時会

10月14日

一般会計補正予算、条例の制定・一部改正、工事請負契約の変更など、6件の町長提出議案について審議、採決が行われ、原案どおり可決されました。

☆工事請負契約の変更

現在建設中の「はわいこども園」のプールにおいて、建設前の検討委員会で協議された内容が、設計者へ正確に伝達されていなかったため、当初計画から約3倍に拡大する設計変更が生じたことに伴うもの。

請負契約金額

変更前

3億8335万9855円

変更後

3億9429万6千円

(1077万6150円の増額)

☆条例制定・一部改正

平成24年度から町内すべての幼稚園・保育所において、幼保一体化されることに伴い「湯梨浜町立こども園の設置及び管理に関する条例」を制定し、保育時間、保育料などを定めた。

また、現在ある保育所、幼稚園の条例をそれぞれ一部改正し、幼保一体化に備えるもの。

第13回臨時会

12月27日

☆工事請負契約の変更

北浜中学校体育館の耐震補強、大規模改造工事について、器具庫、更衣室の壁の補強、取り換えなどに係る費用の増額。請負契約金額

変更前

9607万5千円

変更後

1億316万3550円
(708万8550円の増額)



改修が終わった北浜中学校体育館

議員定数と報酬を検討

議会改革（議員定数・報酬等）について、広く町民の皆さんからの意見を求めるため「議会改革検討委員会」が11月から12月までの間、3回開催され、熱心な議論を重ねた。委員の意見は、次のとおり12月14日に議長に提出された。

主な意見を掲載する。

議員定数

- ・財政面を考えると少なくした方がよい（1〜2名程度の減）
- ・一人ひとりの議員の考えとやる気次第だと思うので、1人定数減の16名になってもいいと思う。
- ・現行の定数・報酬自体が根拠に乏しいものであり、現時点では、現状維持。
- ・議会の内容見直し、今後の議会の取り組みを検討した上で、最低何人で行っていいのか検討した方がいいと思う。

議員報酬

- ・報酬を上げて議員活動に専念出来れば良いと思う。議員を減らして報酬を上げる事はできないか。

・町の財政、社会的状況からみて、報酬を上げるという事は無理だと思うので、現状維持でいいと思う。必要な活動経費は、経費として認めて、費用を出すようにしたいと思う。



委員会の様子

検討委員（10名）

（順不同）

代表 川田良雄（学識経験者・議員OB）
委員 中島 守（商工会長）

- 〃 松岡英樹（区長・長和田）
- 〃 蔵本孝広（区長・宇野）
- 〃 酒井松男（区長・泊1区）
- 〃 森田恵子（女性団体代表）
- 〃 佐藤一史（PTA関係・中学校）
- 〃 磯江智昭（一般公募・小鹿倉）
- 〃 松原厚子（一般公募・はわい長瀬）
- 〃 下山 司（一般公募・高辻）

※議会改革検討委員会の意見を受け、議員9人で構成される「議会改革基本問題調査特別委員会」で検討し、近く中間報告を行う予定です。

おもしろい取り組みに学ぶ

総務産業常任委員会

調査事項

新エネルギーの活用
地域防災力の強化
バイオマスタウン構想
調査地
富山県入善町
富山県立山町

小型水力発電に 意欲的な取り組み

入善町

海洋深層水の低温安定性を利用した低温水は、地場産業の冷房設備に利用され、温水となった後はアワビやエビなどの養殖へと活用され、大きな付加価値となっている。

また、黒部川扇状地の豊富な水資源を利用し、勾配のない状況での低落差流水を活かした発電が前向きに取り組まれており、湯梨浜町も見習うべきと痛感した。

入善町では消防団員充



海岸線防潮堤の開閉門（入善町）

足率が97・9%と非常に高い。消防団協力事業所制度を導入し、事業所の協力を仰いでいる。
湯梨浜町においても、消防団員の確保、住民・事業所の協力、町総合防災訓練の充実・継続など、防災に対する課題を行政と住民、また住民同士が共有できるような施策を再構築する必要があると感じた。

立山町

自主防災組織の集落達成率は81・8%であり、町公設消防団の定数も確保されている。消防署、町の消防関係者の指導意識の高さを感じた。
森林整備の推進や資源循環型社会形成により、CO₂を年間約330トン削減し、地球温暖化防止を目的としている。
湯梨浜町においても生ゴミ処理による液肥化推進とともに、資源循環型社会形成を図るべきだと考える。

教育民生常任委員会

調査事項

健康づくりについて
地域福祉について
調査地
和歌山県みなべ町
兵庫県豊岡市
兵庫県宝塚市

健康づくりで

医療費削減

みなべ町

特産の梅を健康づくり、医療費削減に役立てたい「保健福祉課」と、梅農家の売り上げを伸ばしたい「うめ課」が連携し、和歌山県立医大と共同で、梅干しパワーを活用した健康づくりに取り組んでいる。

また、特定健診の対象者の拡大や、すべての受診料を無料にするなどして、町民が受診しやすい体制を作っている。
医療費削減、住民負担の軽減を目指す行政の積極的な姿勢を感じた。

豊岡市

健康水準の維持向上をめざし、平成22年に健康増進施設「ウェルストーク豊岡」を整備し、多種多様な健康づくり事業を展開している。

健康づくり事業、健診などに参加することでポイントが加算され、そのポイントを市の施設利用券などと交換できるといった「健康ポイント制



梅干しパワーで健康に（みなべ町うめ振興館）

度」を平成23年8月から実施している。まだ明確な評価は出ていないが、参加者は増えており、今後に期待できる。
湯梨浜町でも龍鳳閣を拠点として検討してみる必要性を感じた。

宝塚市社会福祉協議会

地域福祉活動拠点として「ふれあい鹿塩の家」を、地域住民で組織する運営委員会と共同で運営している。

介護が必要になっても今までの生活スタイルをあまり変えずに生活できる地域になっており、地域福祉計画づくりの手本だと感じた。

この取り組みには、しっかりとした地域福祉の理念を持ったリーダーの養成が不可欠であり、行政も協力する体制が必要である。

陳 情 審 査

12月定例会において常任委員会に付託した陳情は、慎重に審査を行い次のとおり決定しました。

件 名	陳 情 者	審査結果
介護保険の充実を求める陳情書	日本自治体労働組合総連合鳥取県本部 執行委員長 植 谷 和 則	採 択
地区公民館管理体制に関する陳情	長瀬地区区長会 代表 井 坂 正 昭	継 続 審 査
年金切り下げ、年金支給開始年齢引き上げ案の撤回を求める陳情	全日本年金者組合鳥取県本部 中部支部長 植 田 勉	採 択
消費税によらない最低保障年金制度の創設を求める陳情	全日本年金者組合鳥取県本部 中部支部長 植 田 勉	趣 旨 採 択
年金受給資格期間の10年への短縮を求める陳情	全日本年金者組合鳥取県本部 中部支部長 植 田 勉	趣 旨 採 択
無年金・低年金者への基礎年金国庫負担分3.3万円の支給を求める陳情	全日本年金者組合鳥取県本部 中部支部長 植 田 勉	趣 旨 採 択
30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書の採択要請について	鳥取県教職員組合中部支部 支部長 佐 伯 英 範	採 択
島根原発1号機・2号機の定期点検後の再稼働見合わせと3号機の建設凍結を求める陳情書	反核・平和の火リレー鳥取県実行委員会 実行委員長 三 村 清	趣 旨 採 択
原子力から再生可能エネルギーへの段階的なエネルギー源の転換を求める陳情書	反核・平和の火リレー鳥取県実行委員会 実行委員長 三 村 清	採 択
T P P 参加に向けた関係各国との協議を中止することの意見書を求める陳情	農民運動 鳥取県連合会 代表者 今 本 潔	採 択

◎議員発議で政府に意見書を提出

☆介護保険の充実を求める意見書

提出先：内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣

☆年金切り下げ・年金支給開始年齢引き上げ案の撤回を求める意見書

提出先：内閣総理大臣、厚生労働大臣

☆30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書

提出先：内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣

☆原子力から再生可能エネルギーへの段階的なエネルギー源の転換に関する意見書

提出先：衆議院議長、参議院議長

☆T P P 参加に向けた関係各国との協議を中止することを求める意見書

提出先：内閣総理大臣、農林水産大臣

☆環太平洋経済連携協定（T P P）参加に反対する意見書

提出先：内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣、内閣官房長官、内閣府特命担当大臣（経済財政政策担当）

わたしも

一言

「私たちの松崎名物『三八市』」

さんばちいち

松崎名物三八市実行委員会 代表 立木てる子さん



近年すっかり活気をなくしていた「三八市」を「子どものころのように賑やかにしたい。私たちに出来ることは何だろう。とにかく何でもやってみよう。私た



にぎわっている「三八市」

ちがやるしかない」と、昨年より実行委員会を立ち上げました。

通りで地元のお店のお惣菜を売ったり、空店舗を借りて、さくら工芸品工房や鳥取アカリスト協会の作品の展示・販売、松崎幼稚園PTAフリーマーケットや東郷市の協力もお願いしました。

さらに昨年は、空店舗を提供してくださる人も増え、岡山、大阪などからも

助っ人として参加してくれる若者の輪も広がり、店舗の片付け、改修、設営に一緒に楽しい汗をかきました。

灯り展に加え、ミニカフェ、昭和15年頃の通りの地図作成、FMラジオの二日開局、「日カフェバー」、地元出身の方のライブ等々、どん



どん楽しい「三八市」になってきました。

今年はすでに昭和30年頃の地図の案も出来たり、お食事処の案も浮かんで、人と人の「話」と「輪」と「和」が広がってきました。

皆様どうぞ10月の3と8のつく日には、松崎名物「三八市」においでください。一緒に楽しみましょう。

議会の傍聴をお気軽に

皆さんが選んだ議員が、どんな活動をしているか、また、身近な問題がどのように処理されているか関心がありませんか。議会の日程などは、議会事務局にお問い合わせください。

議会及び議会事務局に関するご意見をお聞かせください。

☎35-5341 FAX35-3697 メール ygikai@yurihama.jp

あなたの声をお待ちしています。

編集後記

昨年は、大雪に始まり、3月11日の東日本大震災、9月の台風被害など、多くの災害が発生した1年でありました。

一方、東日本大震災が地域の「絆」や、身近な人を思いやる心の大切さを気づかせてくれました。

湯梨浜町でも、災害による被害を最小限に防ぐための避難場所、避難経路などが示されます。机上の計画に終わることなく、住民一人ひとりが万一に備えた取り組みと、心がけが必要ではないかと思えます。

(記 吉村)

議会広報調査特別委員会

委員長 上野昭二

副委員長 増井久美

委員 会見祐子

吉村敏彦

河田洋一

浜中武仁